

アレルギーに悩む患者さんが より快適な毎日を過ごせるように



広島県が 「アレルギー疾患治療拠点病院」に指定



アレルギー疾患の医療水準向上と 関係機関の連携強化に期待

広島大学病院は今年2月、広島県から「アレルギー疾患治療拠点病院」に指定されました。皮膚科の秀道広教授に、拠点病院に指定された背景や本院の今後の役割などについて聞きました。



皮膚科
秀道広 教授

アレルギー疾患の治療拠点病院へ指定

広島大学病院は、アトピー性皮膚炎や喘息、食物アレルギーといったアレルギー疾患のうち、特に重症または難治な患者さんの診断と治療を行うと同時に、アレルギー診療に関する標準的な知識をもつ医師、看護師、薬剤師などの人材を育成する拠点病院として、広島県から2019年2月1日に「アレルギー疾患治療拠点病院」(以下、「拠点病院」という。)の指定を受けました。

拠点病院指定の背景は



最近の医学の進歩は著しく、重症のアレルギー疾患を患っている患者さんでも、健全な人と同じような生活を送れるレベルにまで治療することが可能になってきました。また、アレルギー疾患の発症予防や重症化の予防のための方法も見出されてきました。しかしながら、様々な情報伝達手段を介した不適切な情報の流布や、医療機関ごとの診療の質のばらつきのために、全ての患者さんが医学の進歩の恩恵を受けているわけではないという現状も指摘されています。このようなアレルギー

疾患を取り巻く状況が新しい局面を迎えている中、2014年にアレルギー疾患対策基本法が施行されました。この法律に基づいて制定された「アレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針」には、「国は、アレルギー疾患医療の提供体制の更なる充実を図るため、(中略)地域の拠点となる医療機関のそれぞれの役割や機能並びにこれらの医療機関とかかりつけ医との間の連携協力体制に関する検討を行い、その検討結果に基づいた体制を整備する。」ことが示されています。そのような背景があつて、このたび本院は広島県の「拠点病院」に指定されました。それに伴い、広島県のアレルギー疾患対策と診療における本院の果たすべき役割はこれまで以上に大きなものになります。

医療水準の向上や啓発活動に取り組む

本院には、皮膚科、内科、耳鼻咽喉科の3科で合わせて11人のアレルギー疾患の専門医が在籍し、これまでも広島県内外から受診された多くの重症、難治性のアレルギー疾患の患者さんの診療を行ってきました。これからも、診断が難しい症例や病気の状態が安定しないアレルギー疾患の患者さんに対して、複数の診療科が連携して正確な診断、治療、管理を行うことが求められます。一方、症状の軽い患者さんには、診療所や一般病院などのかかりつけの病院が診療を担当します。アレルギー疾患の重症化を防ぐためには、正確な診断に基づいた適切な治療と管理が重要です。そのため、診療所や一般病院に対して、最新の科学的知見に基づいた適切な医療についての情報を提供し、共有する必要があります。また、アレルギー疾患の重症化の予防には平時からの自己管理も重要です。患者さんやその家族に対しては、[広島県の連絡協議会](#)¹⁾と連携して、アレルギー疾患に対する適切な対応策や予防策に関する定期的な講習会や地域住民に対する啓発活動も必要です。

知識や技能の向上を目指す

「拠点病院」に指定された翌日の2019年2月2日には、広島コンベンションホールで第1回の「広島県アレルギー疾患対策研修会」を開催しました。今回は、アレルギー疾患に従事する医師や看護師、薬剤師を対象としましたが、アレルギー疾患に対する診療には、この他、保健師、栄養士や学校・児童福祉施設等の教職員の協力が不可欠です。本院は、今後もこのような様々な職種の人たちの知識や技能の向上のための活動を継続する予定です。



関係機関の連携を深める



食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、喘息といった疾患を持つ児童・生徒たちは、学校生活の中でも給食や体育、野外活動などで特別な配慮が必要になることがあります。教職員たちが不安なく児童を預かることができ、児童と家族が安心して通学できるように、「拠点病院」の指定をきっかけとして、広島県と本院、地域の医療機関、学校や児童福祉施設の4者がこれまで以上に連携を深める必要があり、本院はその中心的な役割を果たすことが期待されています。

※1) 広島県の連絡協議会……県の医師会や患者団体などで構成する「県アレルギー疾患医療連絡協議会」

患者満足度調査



調査へのご協力
ありがとうございました。

概ね高い満足度

昨年に引き続き「待ち時間」「駐車場」には厳しい声

2018年11月に実施した患者満足度調査の結果、「満足」及び「普通」という評価がほぼ全ての項目で90%を超えました。その一方で、待ち時間や駐車場については不満の声も目立ちました。

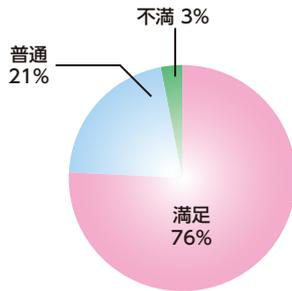
調査は外来患者さん1,100人、11月中に退院された入院患者さん1,004人を対象にアンケート方式で実施しました。回収率は外来93.9%、入院49.5%でした。結果の概要は次のとおりです。

外 来

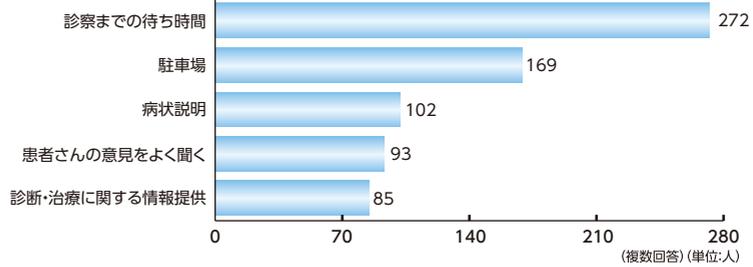
質問内容は昨年と同様の「施設・設備」「受付及び会計窓口」「医師の診察」「歯科医師の診察」「看護職員の対応」「歯科衛生士の対応」「検査・リハビリ等」「全般」の8項目です。昨年と比べて傾向はあまり変わりませんでした。そのうち「施設・設備」「受付及び会計窓口」「歯科医師の診察」「看護職員の対応」「歯科衛生士の対応」「検査・リハビリ等」「全般」の7項目で「満足」・「普通」の合計が昨年と同様に90%を超えましたが、「医師の診察」の項目については昨年の90%から89%と満足度が若干減少しました。

個別の項目では「当院にきて良かったと思いますか」について、97.7%の患者さんから「満足」・「普通」の評価をいただきました。一方、「診察までの待ち時間」の満足度は31.5%、「会計の待ち時間」は55.5%にとどまり、待ち時間の長さに対する厳しい視線がうかがえました。

特に改善が必要な項目のトップ3は、①診察までの待ち時間②駐車場③病状説明でした。



「特に改善が必要である」と思われる項目 (上位5項目)

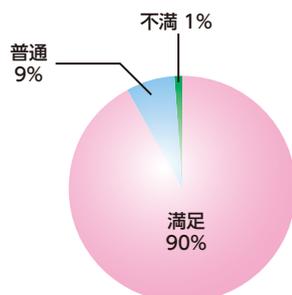


入 院

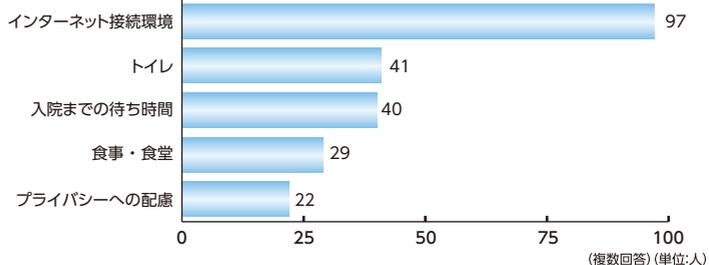
「入退院」「施設・入院生活」「食事」「医師」「看護職員」「その他の職員」「全般」に分けた7項目全てで、「満足」・「普通」が90%を超えました。

個別の項目でとりわけ「満足」の割合が多かったのは「看護職員の話しやすい雰囲気」(91.4%)、「担当の医師に信頼感が持てる」(91.0%)、「看護職員の対応と身だしなみ」(90.0%)でした。

改善が必要と思われる項目では、「インターネット接続環境」が最も多く、「トイレ」が続きました。



「特に改善が必要である」と思われる項目 (上位5項目)



たくさんの自由記述も含め、貴重な意見をありがとうございました。皆さまが利用しやすい病院となるよう、待ち時間及び施設・設備の改善に向けて職員一同努めてまいります。

栄養管理部
情報

間食を摂りすぎて いませんか？



担当した管理栄養士



間食とは、朝・昼・夕食以外に摂るエネルギー源となる食べ物や飲み物のことです。気分転換や生活に潤いを与えるなどの役割もあります。しかし食べすぎは、肥満や生活習慣病などにつながる可能性があります。回数・量・質そして、栄養素の不足が補えるような間食を選ぶことが大切です。



回数・量・質そして、栄養素の不足が補えるような間食を選ぶことが大切です。

参考:厚生労働省HPより

どれをえらばいいの？

- 洋菓子は和菓子より高カロリーになることがあるので注意!
- スナック菓子など食感の軽いものは、量の管理が必要。
- 大袋やお得用ではなく、小袋タイプを選ぶ。
- 水分補給は清涼飲料水ではなくお茶やお水を!



どれくらい食べる？

- 専門店の洋菓子や和菓子、お店のデザートなど表示のない食品ではなく、外袋や袋の裏にエネルギー量や糖質・脂質などの栄養表示が明記されている市販のお菓子を選ぶと安心です。
- 1日200kcal程度の間食が適量と言われています。

参考:厚生労働省HPより



いつ食べる？

10時や15時、もしくはエネルギーを消費する活動前・運動前が最適。夕食後から就寝前には取らないようにしましょう!



おやつレシピ いちご豆乳プリン

〈材料〉 1人分
いちご …………… 3粒
調整豆乳 …………… 80g
砂糖 …………… 大さじ1/2
ゼラチン …………… 2.5g
水 …………… 大さじ1

〈作り方〉
① 大さじ1の水でゼラチンをふやかす
② いちご2粒と豆乳をミキサーにかける
③ ①と②を弱火で温め、砂糖を溶かす
④ 粗熱が取れたら器に入れて、冷蔵庫で冷やし固める
⑤ いちごを飾り付ける



【栄養価】
エネルギー 94kcal
たんぱく質 5.2g
ビタミンC 28mg
食物繊維 0.8g





病院で働く人に ズームイン!

FILE 04
とく い **徳井**
ふみ **文 (28歳)**
歯科衛生士



なぜ歯科衛生士に?

高校受験の際に先生に歯科衛生士の道を勧められ、歯科衛生士という仕事について調べました。手に職をつけられること、人のためになることが魅力だと思い、この仕事を選択しました。勉強するにつれて口腔の健康だけではなく、全身の健康にもつながることを知り、歯科衛生士として患者さんの健康増進に関われることにやりがいを持って、日々仕事に臨んでいます。

仕事の内容は?

広島大学病院には歯周診療科や矯正歯科、口腔外科など歯科だけでも様々な診療科があります。私は去年4月から口腔インプラント・咬合義歯診療科に配置されています。そこでは主に、インプラントや義歯を使用している患者さんの口腔ケアや歯みがき指導、手術の準備などを行っています。

心掛けていることは?

患者さんの話を傾聴し、表情の変化にも注意しながら、患者さんがリラックスして治療に臨めるような信頼関係を築くよう心掛けています。また、健康な口腔内を維持するためにはセルフケアの確立が重要となります。患者さん一人ひとりの心に寄り添い、メンテナンスの重要性を説明し、患者さんのモチベーションを保てるように心がけています。

うれしかったことなどエピソードは?

患者さんに笑顔で「ありがとう」や「またあなたに見てもらいたい」などと感謝の言葉を頂けるととてもうれしいですし、やりがいを感じます。日々学ぶことも多いので、知識や技術など努力した分だけ向上していけるのはとても楽しいことだと感じています。

今後の夢は?

基本的な知識、技術に加え、全身疾患のことや内服薬の口腔内への副作用などの知識が益々必要となります。個々の患者さんにあわせて、口腔から健康をサポートができるよう、幅広い専門的な知識と技術のスキルアップを目指します。



催しのご案内 (2019年4月~6月)

がん治療を支える **患者サロン** 会場：臨床管理棟3階 3F2会議室

がんところのお話
4月18日(木) 13:30~14:30 講師：緩和ケアチーム精神科医師 倉田 明子

食道がんの基礎と治療について
5月16日(木) 13:30~14:30 講師：消化器外科医師 浜井 洋一

肺がんの基礎と治療について
6月19日(水) 13:30~14:30 講師：呼吸器外科医師 宮田 義浩

患者・家族が同じ目線で **がん患者おしゃべり会**

4月23日(火) 13:30~14:30
5月28日(火) 13:30~14:30
6月25日(火) 13:30~14:30
会場：診療棟2階 健康情報プラザ

いずれも問い合わせは：
がん相談支援センター ☎082-257-1525